

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790800025		
法人名	有限会社 スマイルケア		
事業所名	グループホーム 前田の家		
所在地	沖縄県浦添市前田547番地		
自己評価作成日	平成28年 2月 1日	評価結果市町村受理日	平成28年5月31日
※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)			
基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_pref_topjigvosvo_index=true">http://www.kaigokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_pref_topjigvosvo_index=true</a>		

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成28年	3月30日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本事業所は小学校・自治会館が近隣にあり、住宅街で家庭的な事業所である。建物は屋根に赤瓦や2体のシーサーがあり、裏は森と畑で、本事業所も家庭菜園を設け、季節折々の野菜を利用者と共に栽培し、食事に彩を添えている。利用者や職員は明るく、笑顔があふれ家族のように一人ひとりに丁寧に関わってケアに努めている。又、入居者同士も馴染みの関係を築き、互いが支え合い、食事・洗濯・掃除等を主体的に関わり、可能な限り入居者のニーズに沿うように心がけている。利用者は自由に家族の元へ帰宅出来たり、自宅に戻りたい方には目標が実現できるように支援するように検討している。又、常に地域の一員として交流を持ち、自治会の行事(盆踊り・敬老会・クリーン作戦等)のボランティアや地域のふれあいサロンの方達(ドライブ・カラオケ・新年会等)との交流を大切にして、住み慣れた場所で本人らしく穏やかな暮らしが継続できるように自立支援に努めている。又利用者がどのような状態になられても最後の看取りまでを視野に入れ支援に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、3階建ての高齢者複合施設で1階には小規模多機能型施設、3階は住宅型有料老人ホームで当事業所は2階に位置し、連携が図られている。地域密着型サービスの意義を踏まえ地域との関わりを大切に、社会資源を活用した取り組み、清掃活動やふれあいサロンでは利用者の力が発揮できる場面を作っている。地域の方と一緒に活動する事で、認知症について理解してもらう等、啓蒙活動に繋がっている。複合施設の職員間の連携が構築され、緊急時等にはヘルプ出来る体制作りが行われ、代表者が看護師であり職員の安心に繋がっている。家族と利用者だけでは外出が難しい所や利用者の好きな場所などの要望を聞いて、事業所が外出の支援をしている。運営推進会議は定期的に開催し、日頃の活動や利用者の生活場面を写真資料で紹介して委員にわかりやすく理解してもらっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成 28年 5月 12日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	本事業所の理念と共に具体的な基本指針を設け、実践的な行動目標を全職員が達成し、日々新たな気持ちで、入居者へ関わる事が出来るように、毎日始業開始前に代表、管理者、職員は皆で理念と行動目標の唱和をおこなっている。	理念は地域密着型サービスの意義を踏まえて、代表者と職員が作成した事業所の理念と基本方針を継続している基本方針の中から今日の目標を掲げ、理念に沿って行動、支援できているか日中、夕方の申し送りで確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は、自治会に加入している。諸々の行事(地域の清掃作業や花植えのボランティアや盆踊り・ふれあいサロンとの交流でドライブ・新年会・忘年会等)利用者と職員は共に参加し地域交流している。	利用者と職員は、地域行事の清掃や盆踊りに参加している。社協主催のふれあいサロンでは、棒体操指導していた利用者が指導したり、介護の日には市役所で利用者が合唱に参加している。近隣保育園児や美容、三線のボランティアの方が訪問し交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の自治会やふれあいサロン等や行事の際、地域の方と職員は利用者と交流に参加する中で、認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて生かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、実際の活動の写真を会議の資料に添付して、活動の報告をすると共に、事業所内で起こった、インシデント・アクシデント・感染症について定期的に報告し、行政やその他の意見を取り入れ再発防止、感染予防の取り組みに活かしている。	利用者、家族、行政、地域、知見者等が参加して年6回開催し、事業所の行事、活動等は写真資料を使って委員に解りやすく案内している。事故、ヒヤリハットも報告され、情報交換、意見交換がおこなわれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課・福祉課・生活保護課・地域包括支援センター・社会福祉協議会・警察の生活安全課等と情報交換を行い連携して支援している。	市担当者とは、電話や窓口に出向いたり、運営推進会議や市事業所間で情報交換、連携している。生活保護利用者の医療費の相談や台風時の受け入れには至らなかったが民生委員より相談があり、市福祉課と連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除方針を設け事業所内に提示して全職員で毎朝唱和している。身体拘束のマニュアルを作成し、職員は身体拘束の具体的な行為を定期的に見直しをしている。認知症で常に離所をする方の場合、家族より同意を得て内玄関には安全上施錠を行うが、状況を判断して施錠をしない工夫もしている。	管理者、職員は身体拘束について理解し、拘束しない方針を毎朝唱和して共有している。現在、状況に応じてや見守りが手薄の時は安全のため玄関を施錠している。利用者が出て行く時は声かけて一緒に1階の事業所訪問やドライブに出かけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人権尊重を理念に盛り込み唱和に努めている。職員は自宅や事業所内で、情報交換や観察を怠らず、虐待が見逃されないように常に意識を持ち、地域支援課・福祉課・医師・警察・家族を含め連携が取れるように努めている。		

沖縄県(グループホーム 前田の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や事業所は自立支援事業を紹介したり、家族の状況下で、本人の意向を尊重し、利用者・家族・地域支援課・福祉課・社会福祉協議会等との連携を図り必要性について活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始時には契約時に十分な説明を行い、理解や納得が出来ているのか、その後も必要時は適宜説明をしている。又、入院に至った際にも、医療機関と連携を図り、家族の不安や疑問が発生しないように、誠意を待った対応に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に運営会議を設け、管理者や職員は利用者や家族からの意見を頂き、その申出等が活かされているのかその経過や対応策を次回の運営会議で外部者へ報告したり、その都度苦情に対しての対応や再発防止に努めるように、常に家族と事業所との意見交換や、苦情の確認が出来るように努めている。	契約時に意見箱や事業所、行政機関の苦情、相談窓口について説明し、運営推進会議や面会時に声かけて聞く機会としている。利用者の名前が覚えられないので、「テーブル席に名前を置いて名前で呼びたい」との利用者の意見を取り上げネームプレートを利用者と一緒に作り活用している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、運営に関して職員からの意見や提案を毎日の事業開始時のミーティングにおいて報告を受け、意見を反映させるために努めている。	朝、夕のミーティング、申し送り等や個別に職員の意見を聞いている。「外出時に必要な車いすを増やしてほしい」や業務改善等の意見、提案はその都度職員が働きやすいように反映している。新任には指導職員を就け、働く意欲やサービスの向上に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に現場に赴くと共に、朝のミーティングにおいて皆の意見をタイムリーに聞くようにしている。又、処遇改善加算金の支給や、昇給、永年勤続者の表彰等においても個々の努力を評価できるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は常に事業所に赴き、管理者や職員の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会を確保したり、管理者と共に業務内で個々の力量に応じて指導者を選任し、医学的知識や介護知識又技術指導にあたっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に加入したり、グループホーム連絡会の管理者等と情報交換したり、他の事業所に赴き、ネットワーク作りに努めサービスの質の向上に努めている。		

沖縄県(グループホーム 前田の家)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に面談し希望の聞き取りや、事業所を見学して頂き入居者や職員や事業所の雰囲気を見て頂いて具体的な支援内容を聞き取りをし本人の希望を尊重出来るように安心してサービスが導入できるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望の聞き取りを十分に行い、介護負担の軽減や本人と家族の要望がずれる事の無いように、施設見学や事業所の雰囲気を見て頂き家族の要望に耳を傾け安心してサービスが導入できるように、信頼関係を築ける関係性づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、本人と家族が必要としている支援を十分に聞き取りをして、他のサービスを含めて十分な相談を受けて、必要な場合には、他のサービスの利用も含めて望ましい対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、常に本人の立場になり自分の出来ること、したいことを見極め、自立支援に向けた活動や行事や地域に出向き、ボランティア等の活動もおして、ともにその方の暮らしを支えている者同士の関係性を築くように努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の面会や外出・帰宅等は自由にしていただき、事業所内のレクリエーション・カラオケなど季節々の行事、屋外活動のドライブ・ピクニック・買い物などに気軽に参加していただき本人と家族の絆を大切にしながら、共に支える関係性を築いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしてきた馴染みの人との関係性が途切れないように、事業所内で自由に面会して頂いたり、地域の行事やふれあいサロンに参加して、共に過ごしたり、又、新しく出会う人との交流等も通して新しい馴染みの関係性が築けるように努めている。	家族や本人、面会に見えた知人等から、利用者の地域社会との関係性を把握し、新たな情報は記録している。家族の協力で馴染みの美容室に通う方や模合の場に連れていくなど、また、ふれあいサロンで利用者の得意とする活動の場を作り、関係性が途切れないように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりを把握して、その方の相性や馴染みの関係、身体や精神の状態を配慮して入居者が孤立しないように男女関係なく、利用者が良い関係を保てるように、レクリエーションや共同生活をどうして利用者同士の支え合いを支援している。			

沖縄県(グループホーム 前田の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了してもご家族が面会に来られたり電話で相談を受けご本人やご家族に良い支援が出来るように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの想いや暮らしの希望、意向の確認は本人を中心に把握するように努めている。意思疎通の困難な方やご自身の意向が出しにくい場合、家族から聞き取りをしたり、ご自身の意向が聞き取りやすい環境を工夫して可能な限り、本人の希望の把握に努めている。	利用者の思いや意向は、日々のケアの中で直接に聞いたり、プライバシーに配慮して居室で聞くこともある。主訴の表出が困難な場合は問いかけて表情や仕草等で把握し、家族にも聞いたり、入居前に利用していた事業所とも連携して把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし、生活スタイル、趣味や得意な事を把握するため、初期のサービスの導入の前に聞き取りをしたり、日々の変化を見直すため、常に把握し、その人らしい暮らしの支援が出来るように、家族や職員と情報の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのその人らしい過ごし方、現状の心身状態、有する力等はサービスの導入前に本人や家族に聞き取りをしたり、日々変化する中で、本人や家族、職員と情報交換したり、実際の日常生活動作を調査して把握をするように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題について、担当者会議で本人を中心に家族や関係者が専門的な意見や、アイデアを反映させ介護計画を作成し定期的にモニタリングをして現状に即した計画になるように努めている。	担当者会議に本人、家族が参加の下開催され、更新時にアセスメントも実施している。モニタリングは毎月実施し、状況、状態変化時に見直しを行っている。介護計画もその人らしく安心して暮らせる個別計画となっているが、その人らしい実施記録は確認出来なかった。	その人らしい個別の介護計画に沿っての実施記録の記述に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の様子やケアの実践、結果、気づき、工夫は日々本人の個別記録に記入したり、申し送りノートを職員が確認したり、毎日のミーティングで職員が情報を共有して、日々のケアがタイムリーに見直され、介護計画に活かされるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本施設は、小規模多機能や有料老人ホームが同一建物内にあるため、3事業所間で柔軟に交流して、合同のドライブ・レクリエーション・お茶会・地域の交流等にも合同の活動を積極的に行っている。		

沖縄県(グループホーム 前田の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自治会等の行事・ふれあいサロン等の活動に利用者と参加して地域と連携を図り、一人ひとりの暮らしを支える地域資源を活用しながら豊かな暮らしを支える支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの医療機関へ同行したり訪問診療に立ち会い適切な医療が受けられるよう図ると共に、定例で行われる浦添市在宅医療ネットワーク連絡会に参加し、どのような状況になっても、安心した医療が受けられるように他の専門職種との連携とネットワークづくりをはかっている。	ほとんどの利用者が入居前からのかかりつけ医を利用している。在宅からの訪問診療も継続している方もいる。受診は他科受診も含め、家族対応を基本としている。『連絡票』を用いて診療内容を記入してもらい、診療内容は即日職員へ周知し、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、日常の関わりの中で、得た情報や気づきを事業所の看護師や家族と情報を共有し、個々の利用者がかかりつけ医の受診や緊急時の対応の際に適切な看護の支援を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	急な病状の悪化時はかかりつけ医や入院先の病院との調整を図り、文書・電話・面会等をして情報の交換や早期に退院できるよう、かかりつけ医と入院先の退院時カンファレンスに参加したり、相談員と常日頃から連携を取るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者が重度化した場合や終末期には、本人の気持ちを尊重し、早期から本人や家族の意向に沿うように、担当者会議を開催し事業所で出来る事、最大限意向に沿うよう支援をかかりつけ医や関係者と話し合い、文書で意向を明確にし、入院先医療機関と情報共有して、その希望に沿うようチームで支援できるように努めている。	入居時の重要事項説明時に、事業所の方針として看取りを行う旨を説明し、本人家族の意志を確認している。重度化や体調変化があった場合は話し合いを重ねたうえで同意書を交わしている。開所1年目で当該事例はないが医療機関と連携体制を整え、利用者の希望に沿う支援ができるよう取り組みを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時には、関係医療機関・事業所の看護師と連携して応急処置・服薬・又、必要時には病院受診や訪問診療等適切な対応に努めている。施設看護師は介護職員に対して、その都度、応急処置・初期対応等の指導をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震を想定して年2回事業所主体で防災訓練を実施し職員の防災意識を高めると共に、スプリンクラー・火災報知機を使用した訓練を行う事で全職員が身に付けるように努めている。	昼夜想定総合訓練を2度行っている。更に、機器の誤作動が発生した際には、自動通報により消防が出動し、地域の方も事業所に駆けつける等、実践並みの避難訓練が行われたことがあった。地域の方々との協力体制も築くことができ、避難ルートの再確認等、職員全体が防災意識を高める機会にもなった。	

沖縄県(グループホーム 前田の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が一丸となり日々新たな気持ちで支援する為、毎日朝のミーティングでは理念に則った唱和をしている。職員が利用者に対して、尊厳やプライバシーを損ねないケアが来ているのか、代表者は常に事業所へ赴き、管理者と共に言葉かけ、ケアのあり方の検索や指導に努めている。	基本方針を徹底し、個浴の支援や、排泄時はタオルをかける等、プライバシーに配慮したケアに努めている。居室に入る際には本人の承諾を得てから入っている。本人の好きな大正琴を披露する場面を活動に取り入れたり、趣味の囲碁を仲間と満喫できる時間を設けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で入居者一人ひとりに対して、コミュニケーションを図り、園外活動やレクリエーションの参加の仕方、そのほかの活動の参加に対してご本人の希望や思いを聞き取り、自分で選択や決定が出来るよう、お伺いの心で接するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、事業所の都合を優先するのではなく、一人ひとりが今日どのように過ごしたいのか体力や状況に応じて、食事・休憩の取り方等、その過ごし方を希望に沿って支援するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好みの洋服等選択して頂くようにしている。又、男性は理容師、女性は美容師が事業所に訪問し、本人の希望のパーマ・毛染め・好みのカットをして頂いたり、本人の行きつけの美容院に行かれたり、その人らしいおしゃれを大切にする支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを尊重した食事形態にして食べて頂いたり、普段の食生活に合わせた好みの食事を工夫して、行事の際には手巻き寿司・誕生会・クリスマス・お正月の季節の行事に合わせた楽しみのある食事を利用者と職員と一緒に買い物や準備・調理・片づけ等を行い楽しみのある食事になるように努めている。	利用者の好みやリクエストに応じて職員がメニューを考え、カロリーも考慮しながら献立表を作成している。職員と一緒におかず作りに参加し、全員でテーブル中央のホットプレートを囲んで、出来上がりまで見守る等、食事が楽しみになるような工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを関係機関の栄養士にアドバイスを頂いたり、尿路感染症や脱水等に留意するため、水分管理も個別のボトルで管理している。水分量が少ない場合は入居者の好みの飲み物を提供するなど個別対応に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は必ず、一人ひとりの口腔状態を確認し、入れ歯が合わない等で炎症を起こしていないか、家族と相談し適切に歯科を紹介している。又、能力に応じて、自立支援をふまえた口腔内の清潔保持に必ず努めている。		

沖縄県(グループホーム 前田の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄の能力に応じておむつの使用を減らすため、トイレに誘導し排泄パターンの習慣に合わせて、適時にトイレに誘導して拭き取り、衣服の着脱等日常生活のリハビリに取り組んでいる。又、本人の希望に応じて、排泄動作の自立に向けた支援に努めている。	排泄チェック表を用いて一人ひとりの排泄パターンを把握している。日中はほとんどの方がトイレでの排泄を行っている。死角のないフロアのためさげなく見守りを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因を考えその対策を摂ったり、トイレで座位保持をして腹圧をかけての排便促しや、腹部マッサージや、適宜運動をし家族や医療機関と連携を取り便秘だけでなく、尿路感染症の予防にも努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人ひとりの希望をうかがい、介護者の希望・入浴時間の調整、その人の希望に沿った支援の方法を行っている。又、入居者のプライバシーを尊重するため、一人の利用者に対して一人の職員で関わり、一対一の入浴支援に努めている。	一人ひとりの希望に沿って午前でも午後でも好きな時に入浴できるよう支援している。個浴で同性介助を基本としている。シャンプーや石鹸等は本人が好きな物を持ち込み使用している。着替えは本人に選んでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの体調や生活習慣に応じて、本人のペースに合わせながら、事業所の都合に合わせて、他の入居者との兼ね合いを配慮しながら、適宜休息したり安眠できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について、目的、副作用や容量について、かかりつけ医や家族や事業所の看護師と介護員が綿密に連携を取り、情報交換をして病状が安定するように努めている。特に認知症の内服等は体調を整えるため、過剰な服薬にならないように医師と密な連携を取りながら支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居相談から本人の生活歴・趣味・得意なことを本人や家族から聞き取り、本人らしい楽しみ事・今希望する事は何かを尊重して出来る事・好きな事で周囲を楽しませる役割づくり・楽しみ事で気分転換が出来るように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自立支援に向けて、買い物の外出支援や、地域のふれあいサロンとの交流でカラオケを楽しんだりしている。又、入居者の希望を聞き取りをして利用者と共に行ったお弁当持参のピクニック(ひまわり畑・奥武島等)やイルミネーション見学(ドライブ)・プラネタリウム鑑賞などを行い入居者の希望に沿うように努めている。	ふれあいサロン利用者と合同でドライブや外食等に出掛け交流している、車酔いをする方には、日常的に散歩に出かける等個別に対応をしている。食材料の買い出し等、職員と一緒にスーパーへ買い物へ出かけることもある。	

沖縄県(グループホーム 前田の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1人ひとりの自由なお金の所持や使うことの楽しみを尊重している。自分で管理できない利用者には、事前に家族の了解を得て、屋外活動時の買い物のおこづかい等、事業所が立て替えをし本人の希望に沿えるように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望がある場合は、家族の了解のもと電話に出ていただき直接家族の声を聴いてもらうことにより本人の安心や納得を得られて本人と家族の安心に繋がる事の支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間で利用者の不快や混乱が起こらないように騒音等は配慮している。園芸作業や家庭菜園が活動としてできるように、季節の野菜を作り、料理の食材として利用し、生活感や季節を感じて頂くため、季節折々のプランターに植えた花を育てて、居心地の良い過ごし方が出来るように努めている。	ソファや椅子を置き、フロアでゆったり過ごせるよう配置している。民謡を流したり、職員が三線をひきながら歌ったり、楽しく過ごせるような工夫をしている。フロア随所にイオン発生空気清浄機を稼働させ生活臭に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	事業所にはベランダがあり、木作りのベンチで入居者同士が、風に当たり涼しんだり、思い思いに気の合ったお友達同士が交流できるように、同建物事業所で楽しく談笑できる場所や時間の工夫をして過ごせるような居場所づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたタンス・枕や布団等の寝具も使用して頂き、本人の好きな飾り物・家族の写真・テレビやラジオ等、本人が好きなものを持参して頂いて、自宅の様に心地よく過ごして頂けるよう努めている。	壁には家族の写真や作品等を飾っている。本人が入居前から使い慣れた寝具やタンス、テレビ等を持ちこんでいる。趣味の大正琴や、聖書等を持ちこんでいる方もいる。毎日布団にUV照射掃除機をかけ清潔を保持している方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりの能力に応じて、四点杖や車椅子を使用している。又、必要な場所に手すりを設置しており安全で自立支援に適した環境づくりに努めている。		